

# インフルエンザについて

掲載期間：2015年1月12日～2016年12月22日

【12月22日】(更新24)

2016年11月インフルエンザ流行情報です。下記は FORTH 情報(要約ベース)を引用しています。

詳しくは、以下、FORTH URLをご覧ください。

<http://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/2016/12141033.html>

## 要約

北半球温帯地域のインフルエンザの活動が、徐々に高まってきました。

●北米では、インフルエンザの活動が徐々に高まってきました。インフルエンザ A(H3N2)が伝播しています。インフルエンザ様疾患 (ILI)は、まだ流行期の注意レベルを下回っていました。アメリカ合衆国では、RS ウイルスの活動の報告が続いていました。

●ヨーロッパでは、インフルエンザ・ウイルスの活動は低い状態でした。しかし、上昇が始まりました。特に、北欧の国々で上昇してきました。インフルエンザ A が伝播しており、最も頻繁に検出される亜型は A(H3N2)でした。今シーズンは、例年よりも早く、定点観測施設での検体でのインフルエンザ陽性率が 10%を上回りました。

●東アジアでは、中国南部でインフルエンザの活動の高まりが報告されました。伝播しているウイルスは、インフルエンザ A(H3N2)でした。

●西アジアでは、インフルエンザの検出数が少ない状態でした。

●アフリカ北部では、モロッコでインフルエンザの検出数が増えてきました。伝播しているウイルスはインフルエンザ A(H3N2)でした。

●カリブ海地域の国々では、インフルエンザ・ウイルスもその他の呼吸器系ウイルスも活動は低い状態でした。中米では、インフルエンザ・ウイルスもその他の呼吸器系ウイルスも活動が徐々に下がってきました。コスタリカでは RS ウイルスの活動が続いていました。

●南米熱帯地域では、インフルエンザ・ウイルスおよび呼吸器系ウイルスの活動が低く留まっていた。例外として、コロンビアでは RS ウイルスの活動の報告が続いていました。

●南アジアでは、イランとスリランカでインフルエンザの検出数が少しずつ増えてきました。この地域で検出されるウイルスは、ほとんどがインフルエンザ A(H3N2)ウイルスでした。

●東南アジアでは、インフルエンザの活動の低い状態が引き続き報告されました。この地域ではインフルエンザ A(H3N2)ウイルスが伝播していました。ベトナムでは、徐々にインフルエンザ A(H1N1)pdm09 が増えていることが報告されました。

●アフリカ西部のガーナでは、インフルエンザ B ウイルスの検出が増えてきました。

●アフリカ南部では、インフルエンザの活動はオフ・シーズンの状態が続いていました。

●南米温帯地域では、インフルエンザ・ウイルスと RS ウイルスの活動が地域全体で引き続き低い状態でした。

●オセアニアからは、インフルエンザ・ウイルスの活動はオフ・シーズンのレベルにあると報告されました。

●2016年11月14日から2016年11月27日までのデータが、FluNet(協定世界時間2016年12月9日03:37:55まで)に基づき、80の国と地域にある国立インフルエンザ・センター(NICs)とその他の国立インフルエンザ研究施設から集められました。WHO 世界インフルエンザ・サーベイランス及び対応システム(GISRS)の検査施設では、この間に 93,152 本を

超える検体が検査されました。インフルエンザ・ウイルスが陽性となった検体は 6,209 本で、このうち 5,630 検体(90.7%)がインフルエンザ A 型、579 検体(9.3%)がインフルエンザ B 型でした。亜型が解析されたインフルエンザ A 型ウイルスのうち、112 検体(2.9%)がインフルエンザ A(H1N1)pdm09、3,787 検体(97.1%)がインフルエンザ A(H3N2)でした。解析されたインフルエンザ B ウイルスのうち、46 検体(36.2%)が B-山形系統で、81 検体(63.8%)が B-ビクトリア系統でした。

【11月14日】(更新22)

2016年11月インフルエンザ流行情報です。下記は FORTH 情報(要約ベース)を引用しています。

詳しくは、以下、FORTH URLをご覧ください。

<http://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/2016/11161123.html>

#### 要約

南半球温帯地域のインフルエンザの活動は、オフ・シーズンのレベルに戻りました。北半球温帯地域のインフルエンザの活動は、まだ高くなく、オフ・シーズンのレベルにとどまっています。

- 南米温帯地域では、インフルエンザ・ウイルスと RS ウイルスの活動が地域全体で下がってきました。
- アフリカ南部とオセアニアでは、インフルエンザの活動がオフ・シーズンのレベルとなりました。
- アフリカ各国からは、この間、インフルエンザの活動がほとんど報告されませんでした。セネガルとケニアからはインフルエンザ A ウイルスの検出が、コートジボワールからはインフルエンザ B ウイルスの検出が報告されました。
- カリブ海地域の国々では、インフルエンザ・ウイルスもその他の呼吸器系ウイルスも活動は低い状態でした。例外的に、キューバではインフルエンザ A(H3N2)とインフルエンザ B ウイルスの検出が続いていました。
- 中米では、インフルエンザの活動は低い状態でした。しかし、RS ウイルスが、いくつかの国で主たるウイルスとして伝播していました。
- 南米熱帯地域では、呼吸器系ウイルスの活動が低い状態でしたが、フランス領ギアナでは、僅かにインフルエンザ A(H3N2)ウイルスの検出数が増えています。
- 南アジア熱帯地域では、インフルエンザの活動は低い状態でした。
- 東南アジアでは、インフルエンザの検出数の減少傾向が観測されました。但し、ラオス、タイ、カンボジアでは、インフルエンザの活動が引き続き報告されました。中国南部でも、インフルエンザの活動の高まりが報告されました。報告は、主にインフルエンザ A(H3N2)でした。
- アジア西部では、インフルエンザの検出数は少ない状態でした。
- 北米およびヨーロッパでは、インフルエンザの活動はインフルエンザ・ウイルスの検出数とインフルエンザ様疾患 (ILI) のレベルが流行期の警戒レベルを下回っており、低い状態でした。アメリカ合衆国では、RS ウイルスの活動の報告が続いていました。
- 2016年10月17日から2016年10月30日までのデータが、FluNet(協定世界時間2016年11月28日04:49:00まで)に基づき、85の国と地域にある国立インフルエンザ・センター(NICs)とその他の国立インフルエンザ研究施設から集められました。WHO 世界インフルエンザ・サーベイランス及び対応システム(GISRS)の検査施設では、この間に65,111本を超える検体が検査されました。インフルエンザ・ウイルスが陽性となった検体は2,215本で、このうち1,866検体(84.2%)がインフルエンザ A 型、349検体(15.8%)がインフルエンザ B 型でした。亜型が解析されたインフルエンザ A 型ウイルスのうち、

73 検体(5.3%)がインフルエンザ A(H1N1)pdm09、1,306 検体(94.7%)がインフルエンザ A(H3N2)でした。解析されたインフルエンザ B ウイルスのうち、15 検体(30%)が B-山形系統で、35 検体(70%)が B-ビクトリア系統でした。

【10月17日】(更新20)

2016年10月インフルエンザ流行情報です。下記は FORTH 情報(要約ベース)を引用しています。

詳しくは、以下、FORTH URLをご覧ください。

<http://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/2016/10201338.html>

#### 要約

インフルエンザの活動は、オセアニア、南アフリカ、南米で下がってきました。北半球温帯地域におけるインフルエンザの活動は、オフ・シーズンのレベルにありました。

●南米温帯地域では、インフルエンザ・ウイルスとRSウイルスの活動が、多くの地域で低下してきました。チリでは、未だにインフルエンザ A(H3N2)ウイルスと、次いでインフルエンザ B ウイルス検出数が多い状態ですが、インフルエンザ様疾患 (ILI)、検査確定インフルエンザの検出数は減りました。パラグアイでは、インフルエンザ様疾患 (ILI)と重症急性呼吸器症候群 (SARI)の患者数がRSウイルスの検出数減少にともない、下がってきました。

●アフリカ南部温帯地域では、主にインフルエンザ A(H1N1)pdm09 を検出しながらも、インフルエンザの活動が下がってきました。

●オセアニアでは、この数週間で、インフルエンザ・ウイルスの活動が低下しました。まだ、インフルエンザ A(H3N2)は流行中のウイルスとして残っています。オーストラリアでは、まだ活動が高い状態ですが下がってきました。ニュージーランドでは、インフルエンザ様疾患 (ILI)での受診割合が流行シーズンの基準値を下回りました。

●カリブ海地域の国々では、ほとんどの地域でインフルエンザ及びその他の呼吸器系ウイルスの活動が低いまでした。例外的に、キューバでは、インフルエンザ B ウイルスの検出数が増加し、フランス領ギアナではインフルエンザ様疾患 (ILI)とインフルエンザの検出数が少しずつ増加してきました。中米では、インフルエンザ・ウイルスの活動は低い状態でしたが、いくつかの国で、RSウイルスの検出数が増加してきました。

●南米熱帯地域では、ほとんどの国で、呼吸器系ウイルスの活動は低い状態でした。例外的に、コロンビアでは、RSウイルスの活動は高まっていました。

●南アジア熱帯地域では、全般的に、インフルエンザの活動は低い状態でした。その中でインフルエンザ B が検出されていました。

●東南アジアでは、全般的にインフルエンザの検出数の減少傾向がみられました。例外的に、ラオスとタイでは、この数週間、インフルエンザの検出数の増加が報告されました。

●アフリカ熱帯地域の国、ガーナとセネガルでは、僅かにインフルエンザの活動の増加が報告されました。

●アジア北部温帯地域では、中国北部でインフルエンザ A(H3N2)が検出されていましたが、低い状態でした。

●北米およびヨーロッパでは、インフルエンザ・ウイルスの検出数は僅かにとどまり、インフルエンザの活動が低い状態でした。インフルエンザ様疾患 (ILI)のレベルは、流行シーズンの基準値を下回っていました。アメリカ合衆国では、RSウイルスの活動が高まっていました。

●2016年9月19日から2016年10月2日までのデータが、FluNet(協定世界時間2016年10月14日04:42:06まで)に基づき、76の国と地域にある国立インフルエンザセンター(NICs)とその他の国立インフルエンザ研究施設から集められました。WHO世界インフルエンザサーベイランス及び対応システム(GISRS)の検査施設では、この間に43,038本を超

える検体が検査されました。インフルエンザ・ウイルスが陽性となった検体は 2,619 本で、このうち 2,150 検体(82.1%)がインフルエンザ A 型、469 検体(17.9%)がインフルエンザ B 型でした。亜型が解析されたインフルエンザ A 型ウイルスのうち、161 検体(9.3%)がインフルエンザ A(H1N1)pdm09、1,577 検体(90.7%)がインフルエンザ A(H3N2)でした。解析されたインフルエンザ B ウイルスのうち、22 検体(19.6%)が B-山形系統で、90 検体(80.4%)が B-ビクトリア系統でした。

【9月19日】(更新18)

2016年9月インフルエンザ流行情報です。下記は FORTH 情報(要約ベース)を引用しています。

詳しくは、以下、FORTH URLをご覧ください。

<http://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/2016/09211453.html>

#### 要約

南米温帯地域の国々では、インフルエンザの活動にバラツキがみられ、南アフリカでは活動の高まりが続き、オセアニアではこの数週間でインフルエンザの活動の高まりが着実となってきました。北半球温帯地域におけるインフルエンザの活動は、オフ・シーズンのレベルにありました。

●南米温帯地域では、多くの地域でインフルエンザ・ウイルス、RS ウイルスの活動が低下してきました。チリでは、インフルエンザ様疾患 (ILI)、検査確定インフルエンザ、RS ウイルスの検出数が上昇したままでした。インフルエンザの中では、インフルエンザ A(H1N1)pdm09 が主体で、インフルエンザ A(H3N2)とインフルエンザ B ウイルスも同時に伝播していました。アルゼンチンとパラグアイではインフルエンザの活動は弱く、ウルグアイからはインフルエンザの活動の報告がありませんでした。しかし、アルゼンチンでは、インフルエンザ様疾患 (ILI)と重症急性呼吸器症候群 (SARI)の患者が多い状態でした。南米熱帯地域では、まだ、RS ウイルスの活動が高まった状態でした。

●アフリカ南部温帯地域の国々では、インフルエンザ A(H1N1)pdm09、A(H3N2)、B ウイルスが重複して伝播していました。

●オセアニアでは、この数週間で少しずつインフルエンザ・ウイルスの活動が高まってきました。しかし、既にピークに達したようでした。主にインフルエンザ A(H3N2)ウイルスが伝播していました。対照的に、ニュージーランドでは、インフルエンザ A(H3N2)が多く伝播し、インフルエンザ陽性の検体が 43%もあるものの、インフルエンザ様疾患 (ILI)での受診率は低い状態でした。

●カリブ海地域の国々では、ほとんどの地域でインフルエンザ及びその他の呼吸器系ウイルスの活動が低いままでした。例外的に、RS ウイルス主体による重症急性呼吸器症候群 (SARI)の患者数と入院数が増えていたスリナムでは、この数週間はパラインフルエンザの伝播が高まりを続けていました。中米では、インフルエンザの活動は低いままでした。しかし、ほとんどの国で、RS ウイルスによりインフルエンザ以外の呼吸器系ウイルスの活動が高い状態でした。

●南米熱帯地域では、ほとんどの国で、この数週間はインフルエンザ A(H1N1)pdm09 と RS ウイルスの活動が低下してきたか、又は、低い状態にありました。コロンビアでは、インフルエンザの活動が低下してきました。ブラジルとエクアドルでは、インフルエンザ A(H1N1)pdm09 の検出数が減ってきました。ペルーでは、インフルエンザ A(H1N1)pdm09 の同時伝播がありながらも、インフルエンザの活動は低下を続けていました。

●南アジア熱帯地域の国々では、この地域での季節性インフルエンザ A ウイルスと B ウイルスの同時伝播を伴いながらも、インフルエンザの活動は全般的に低い状態でした。

●東南アジアでは、この地域での季節性インフルエンザ A ウイルスと B ウイルスの同時伝播を伴いながらも、この数週間はインフルエンザの検出数が減少する傾向にありました。

●アフリカの北部、中央部、西部地域において、この間に報告のあったいくつかの国の間では、この数週間に散発的にインフルエンザ A(H3N2)の患者が報告されました。アフリカ東部では、マダガスカルで、インフルエンザ B 主体の検出数の上昇が続いていることが報告されました。ケニアでは、インフルエンザ A(H1N1)pdm09 とインフルエンザ A(H3N2)、の活動が低下してきたことが報告されました。

●北米およびヨーロッパでは、インフルエンザ・ウイルスの検出は僅かしかなく、インフルエンザの活動が低い状態でした。インフルエンザ様疾患 (ILI) のレベルは、流行シーズンの基準値を下回っていました。

●アジア温帯地域では、インフルエンザの活動は低い状態でした。

●2016 年 8 月 22 日から 2016 年 9 月 4 日までのデータが、FluNet (協定世界時間 2016 年 9 月 16 日 03:54:50 まで) に基づき、68 の国と地域にある国立インフルエンザセンター (NICs) とその他の国立インフルエンザ研究施設から集められました。WHO 世界インフルエンザ・サーベイランス及び対応システム (GISRS) の検査施設では、この間に 42,184 本を超える検体が検査されました。インフルエンザ・ウイルスが陽性となった検体は 2,911 本で、このうち 2,271 検体 (78%) がインフルエンザ A 型、640 検体 (22%) がインフルエンザ B 型でした。亜型が解析されたインフルエンザ A 型ウイルスのうち、301 検体 (18.6%) がインフルエンザ A(H1N1)pdm09、1,313 検体 (81.4%) がインフルエンザ A(H3N2) でした。解析されたインフルエンザ B ウイルスのうち、44 検体 (24.9%) が B-山形系統で、133 検体 (75.1%) が B-ビクトリア系統でした。

#### 【8月22日】

2016年8月インフルエンザ流行情報です。下記は FORTH 情報(要約ベース)を引用しています。

詳しくは、以下、FORTH URLをご覧ください。

<http://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/2016/08251337.html>

#### 要約

南半球温帯地域の国々では、インフルエンザの活動にバラツキがみられました。この数週間、南アフリカでは着実に活動が高まってきました。一方、オセアニアのほとんどの国では活動がまだ低い状態でした。北半球温帯地域におけるインフルエンザの活動は、オフ・シーズンのレベルにありました。

●南米熱帯地域では、チリとパラグアイで、インフルエンザ様疾患 (ILI) および重症急性呼吸器症候群 (SARI) の指標が高く留まっていました。インフルエンザの活動は、チリでは高まりを続け、パラグアイでは高く留まっていました。しかし、ウルグアイからのインフルエンザの活動の報告はありませんでした。チリとパラグアイでは、インフルエンザ A(H1N1)pdm09 とインフルエンザ B ウイルスとが同時に伝播していました。アルゼンチンでは、インフルエンザの活動が低下してきました。インフルエンザ様疾患 (ILI) と重症急性呼吸器症候群 (SARI) の活動は今以上に高まる傾向はありませんが、高いままの状態でした。南米熱帯地域では、RS ウイルスの活動が高い状態にありました。

●アフリカ南部温帯地域の国々では、インフルエンザ様疾患 (ILI) による患者で、インフルエンザの検出数が増え続けています。最近では、主体がインフルエンザ B ウイルスからインフルエンザ A ウイルスに移ってきました。肺炎の患者では、最近に報告されたものと比較して、RS ウイルスの検出割合が下がってきました。

●オセアニアでは、インフルエンザ・ウイルスの活動が少しずつ高まってきましたが、まだ、全体としては低い状態でした。インフルエンザ A(H3N2)ウイルスが主体であったオーストラリアとニューカレドニアでは、この数週間は、A(H1N1)ウイルスも検出され、インフルエンザの活動は高まってきました。ニュージーランドでのインフルエンザの活動レベルは、年間のこの時期としては低い状態でした。

●カリブ海地域の国々では、インフルエンザとその他の呼吸器系ウイルスの活動は引き続き低い状態でした。いくつかの国では、重症急性呼吸器症候群(SARI)の患者数および入院患者数が少しずつ減ってきましたが、キューバでは、この数週間は重症急性呼吸器症候群(SARI)の患者数が少しずつ増えてきました。

●(中米の)パナマでは、インフルエンザ以外の呼吸器系ウイルスの検出数が、増えてはいませんが高い状態です。コスタリカでは、インフルエンザの活動性は低いままでしたが、RS ウイルスが主体となって他の呼吸器ウイルスの活動が増えてきていました。

●南米熱帯地域では、ほとんどの国で、この数週間はインフルエンザ A(H1N1)pdm09 と RS ウイルスの活動が低下してきたか、低い状態に留まっていました。コロンビアでは、重症急性呼吸器症候群(SARI)の活動が低下を続け、昨年と同時期と同じレベルとなりました。エクアドルとボリビアでは、引き続きインフルエンザ A(H1N1)pdm09 の検出数が減ってきました。ペルーでは、先週、主体となっているインフルエンザ B によってインフルエンザの活動が高まっていますが、RS ウイルスを中心に他の呼吸器系ウイルスの検出数は減ってきました。ブラジルとエクアドルでは、インフルエンザ A(H1N1)pdm09 が低い状態で活動していました。

●南アジア熱帯地域では、インフルエンザ A とインフルエンザ B が同時に伝播しながらも、総じてインフルエンザの活動は低い状態でした。

●東南アジアでは、インフルエンザ A とインフルエンザ B が同時に伝播していることで、この数週間、インフルエンザの検出数が増えてきました。

●アフリカの北部温帯地域と中央部熱帯地域では、全体的にインフルエンザの活動が低い状態でした。この間に報告のあった国では、アフリカ西部では主にインフルエンザ A(H3N2)の検出が、アフリカ東部と北部では主にインフルエンザ B ウイルスの検出が、それぞれに報告されました。

●北米およびヨーロッパでは、インフルエンザの活動が低い状態でした。その中で、インフルエンザ B が検出されました。インフルエンザ様疾患 (ILI) のレベルは、流行シーズンの基準値を下回りました。

●アジア温帯地域では、インフルエンザの活動が低い状態でした。

●2016年7月25日から2016年8月7日までのデータが、FluNet(協定世界時間2016年8月19日04:04:59まで)に基づき、50の国と地域にある国立インフルエンザセンター(NICs)とその他の国立インフルエンザ研究施設から集められました。WHO 世界インフルエンザ・サーベイランス及び対応システム(GISRS)の検査施設では、この間に31,890本を超える検体が検査されました。インフルエンザ・ウイルスが陽性となった検体は1,654本で、このうち1,096検体(66.3%)がインフルエンザ A 型、558検体(33.7%)がインフルエンザ B 型でした。亜型が解析されたインフルエンザ A 型ウイルスのうち、319検体(32.9%)がインフルエンザ A(H1N1)pdm09、652検体(67.1%)がインフルエンザ A(H3N2)でした。解析されたインフルエンザ B ウイルスのうち、70検体(35.7%)が B-山形系統で、126検体(64.3%)が B-ビクトリア系統でした。

【7月11日】

2016年7月インフルエンザ流行情報です。下記は FORTH 情報(要約ベース)を引用しています。

詳しくは、以下、FORTH URLをご覧ください。

<http://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/2016/07151125.html>

## 要約

南半球温帯地域では南米および南アフリカで、インフルエンザの活動が最近の数週間で着実に高まってきました。しかし、オセアニアではほとんどの国で、活動は低い状態に留まっていました。北半球温帯地域におけるインフルエンザの活動は、オフ・シーズンのレベルとなりました。

●南米熱帯地域では、インフルエンザ様疾患 (ILI) と、急性呼吸器症候群 (ARI) や重症急性呼吸器症候群 (SARI) の患者数の増加が続いていました。検出された呼吸器系ウイルスの中では、RS ウイルスおよびインフルエンザ A(H1N1)pdm09 が優勢でした。

●アフリカ南部温帯地域の国々では、インフルエンザの検出数の増加が続いていました。検出されるのは、主にインフルエンザ B ウイルスでした。

●オセアニアでは、インフルエンザ・ウイルスの活動は弱い状態でした。オーストラリアでは、インフルエンザ様疾患 (ILI) の検出数が今年この時期としては低い状態です。

●カリブ海地域の国々では、この数週間にたくさんの国で報告されていたインフルエンザ B の活動が弱まってきたことで、総じて呼吸器系ウイルスの活動は弱い状態で留まっていました。例外的に、ジャマイカでは、重症急性呼吸器症候群 (SARI) や肺炎の活動に僅かな高まりをみせていました。

●中米のエルサルバドルでは、肺炎による入院患者数がピークに達したようでした。パナマでは、この数週間でインフルエンザ A(H1N1)pdm09 の検出が減少してきましたが、インフルエンザ以外の呼吸器系ウイルスの検出数は増加してきました。コスタリカとグアテマラでは RS ウイルスの活動が続いていました。

●南米熱帯域では、呼吸器系ウイルスがさまざまな活動をしていました。コロンビアとボリビアでは、インフルエンザ A(H1N1)pdm09 の活動が強まってきましたが、RS ウイルスの活動は弱まるか、低い状態でした。コロンビアでは、急性呼吸器症候群 (ARI) や重症急性呼吸器症候群 (SARI) の活動が、前年と比べて高まってきました。エクアドルでは、インフルエンザ A(H1N1)pdm09 の検出数がピークに達したようで、重症急性呼吸器症候群 (SARI) に関連する入院患者の割合が予想レベルから下がってきました。ペルーでは、インフルエンザ A(H1N1)pdm09 の活動は弱まってきましたが、RS ウイルスの活動が少しずつ強まってきました。ブラジルでは、インフルエンザの検出数と SARI の指標がピークに達したようでした。

●南アジア熱帯地域では、この地域でのインフルエンザ A とインフルエンザ B の伝播を捕らえながらも、総じてインフルエンザの活動は弱い状態でした。

●アフリカの北部温帯地域と中央部熱帯地域では、全体的にインフルエンザの活動が弱い状態でした。その中で、アフリカ西部では主にインフルエンザ A ウイルスの検出が、アフリカ東部と北部では主にインフルエンザ B ウイルスの検出が、報告されました。

●北米およびヨーロッパでは、インフルエンザの活動が弱い状態でした。その状態の中で、インフルエンザ B が検出されました。インフルエンザ様疾患 (ILI) のレベルは流行シーズンの基準値を下回りました。

●アジア温帯地域では、インフルエンザの活動が弱まりを続けていました。その状態の中で、インフルエンザ B が検出されていました。

●2016年6月13日から2016年6月26日までのデータが、FluNet(協定世界時間2016年7月8日11:42:58まで)に基づき、72の国と地域にある国立インフルエンザセンター(NICs)とその他の国立インフルエンザ研究施設から集められました。WHO世界インフルエンザ・サーベイランス及び対応システム(GISRS)の検査施設では、この間に50,149本を超える

検体が検査されました。インフルエンザ・ウイルスが陽性となった検体は 2,207 本で、このうち 1,247 検体(56.5%)がインフルエンザ A 型、960 検体(43.5%)がインフルエンザ B 型でした。亜型が解析されたインフルエンザ A 型ウイルスのうち、808 検体(74%)がインフルエンザ A(H1N1)pdm09、284 検体(26%)がインフルエンザ A(H3N2)でした。解析されたインフルエンザ B 型ウイルスのうち、113 検体(25.7%)が B-山形系統で、327 検体(74.3%)が B-ビクトリア系統でした。

#### 【6月13日】

2016年6月インフルエンザ流行情報です。下記は FORTH 情報(要約ベース)を引用しています。

詳しくは、以下、FORTH URLをご覧ください。

<http://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/2016/06161124.html>

#### 要約

北半球の温帯地域では、インフルエンザの活動が弱まり、オフ・シーズンのレベルに達してきました。南半球温帯地域では、南米と南アフリカで、インフルエンザの活動が強まり始めました。しかし、オセアニアでは、ほとんどの地域で(活動は)弱いままでした。

- 北米では、インフルエンザの活動が弱まってきました。検出されるインフルエンザの大半がインフルエンザ B ウイルスで占められていました。インフルエンザ様疾患 (ILI) のレベルは流行シーズンの基準を下回りました。
- ヨーロッパとアジア温帯地域では、インフルエンザ B ウイルスの活動を伴いながらも、インフルエンザの活動が弱まってきました。
- アフリカの北部温帯地域と中央部熱帯地域では、全体的にインフルエンザの活動が弱い状態でした。アフリカ西部ではインフルエンザ A ウイルスの検出が、アフリカ東部ではインフルエンザ B ウイルスの検出が報告されました。
- 中米およびカリブ海地域では、インフルエンザの活動とその他の呼吸器系ウイルスの活動は総じて弱いままでした。しかし、エルサルバドル、パナマでは、インフルエンザ A(H1N1)pdm09 ウイルスの活動レベルが強くなってきました。
- 南米熱帯地域では、全体としてはインフルエンザの活動が弱いか、弱まってきました。例外的に、ボリビアではインフルエンザ A(H1N1)pdm09 の活動が強まっています。コロンビアとペルーでは、RS ウイルスの検出数増加が報告されました。コロンビアでは、急性呼吸器症候群および重症の急性呼吸器症候群が増加しており、ペルーでは急性呼吸器症候群と子どもの肺炎のレベルが高くなっていました。
- 南アジア熱帯地域では、いくつかの国でインフルエンザ B ウイルスの高まりをとめないながらも、インフルエンザの活動は総じて弱い状態でした。
- 南米温帯地域では、流行期が始まりました。アルゼンチン、チリ、パラグアイでは、インフルエンザ様疾患 (ILI) と重症急性呼吸器症候群 (SARI) が流行シーズンのレベルを上回りました。呼吸器系のウイルスの検出数が増えてきましたが、まだ少ない状態です。インフルエンザ・ウイルスの中では、主にインフルエンザ A(H1N1)pdm09 が検出されていました。
- アフリカ南部温帯地域の国々では、主にインフルエンザ B ウイルスによるインフルエンザの活動にとめない、流行シーズンが始まりました。
- オセアニアの温帯地域の国々では、インフルエンザ・ウイルスの活動は弱い状態でした。太平洋の一部の島々では、インフルエンザ様疾患 (ILI) の活動の高まりが報告されました。
- 2016 年 5 月 16 日から 2016 年 5 月 29 日までのデータが、FluNet(協定世界時間 2016 年 6 月 10 日 03:53:24 まで)に基づき、84 の国と地域にある国立インフルエンザセンター(NICs)とその他の国立インフルエンザ研究施設から集めら



れています。WHO 世界インフルエンザ・サーベイランス及び対応システム (GISRS) の検査施設では、この間に 61,285 本を超える検体が検査されました。インフルエンザ・ウイルスが陽性となった検体は 4,320 本で、このうち 1,276 検体(29.5%)がインフルエンザ A 型、3,044 検体(70.5%)がインフルエンザ B 型でした。亜型が解析されたインフルエンザ A 型ウイルスのうち、540 検体(71%)がインフルエンザ A(H1N1)pdm09、221 検体(29%)がインフルエンザ A(H3N2)でした。解析されたインフルエンザ B 型ウイルスのうち、221 検体(30.4%)が B-山形系統で、505 検体(69.6%)が B-ビクトリア系統でした。

#### 【5月16日】

2016年5月インフルエンザ流行情報です。下記は FORTH 情報(要約ベース)を引用しています。

詳しくは、以下、FORTH URLをご覧ください。

<http://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/2016/05201444.html>

#### 要約

北半球のインフルエンザの活動は弱まってきました。北半球のほとんどの地域と熱帯地域のいくつかの国からは、引き続き、B 型インフルエンザ・ウイルスの活動が報告されました。南半球のいくつかの国では、インフルエンザ様疾患 (ILI) の活動が少し強くなってきたことが報告されました。

- 北米では、全体としてインフルエンザの活動が弱まってきました。検出されるのは、主にインフルエンザ B でした。
- ヨーロッパとアジア温帯地域では、インフルエンザ B ウイルスの活動が続くものの、インフルエンザの活動は弱まってきました。
- アフリカ北部では、全体的にインフルエンザの活動が弱まる傾向が続いていました。例外的に、エジプトで、この数週間インフルエンザ B の活動が続いていました。
- アフリカの東部と西部では、主にインフルエンザ A ウイルスが報告されました。
- 中米およびカリブ海地域では、インフルエンザの活動とその他の呼吸器系ウイルスの活動が総じて低調でした。エルサルバドルとグアテマラでは、インフルエンザ A(H1N1)pdm09 ウイルスの活動レベルが高い状態でした。カリブ海のいくつかの国からも、インフルエンザ A(H1N1)pdm09 ウイルスの活動が活発に広まってきていることが報告されました。
- 南米熱帯地域の一部、ボリビアとエクアドルでは、インフルエンザ A(H1N1)pdm09 ウイルスの活動が低調でしたが、着実に増加してきました。ペルーでは、インフルエンザの検出数が減りました。ブラジルでは、主としてインフルエンザ A(H1N1)pdm09 ウイルスによって、例年この時期に予想されるインフルエンザの活動レベルを超えた状態が続いていました。コロンビアでは、RS ウイルスの高まった活動状態が続いていました。
- 南アジア熱帯地域では、主にインフルエンザ B ウイルスを検出しながらも、インフルエンザの活動は弱まってきました。
- 南半球温帯地域では、呼吸器系ウイルスの活動が低い状態でした。インフルエンザ様疾患 (ILI) の活動が僅かに高まっていますが、シーズンの警戒レベルは下回りました。
- アフリカ南部とオセアニアの温帯地域の国々では、インフルエンザ・ウイルスの活動は低い状態でした。太平洋の一部の島々では、インフルエンザ様疾患 (ILI) の活動の高まりが報告されました。
- 2016年4月18日から2016年5月1日までのデータが、FluNet(協定世界時間2016年5月13日03:33:09まで)に基づき、90の国と地域にある国立インフルエンザセンター(NICs)とその他の国立インフルエンザ研究施設から集められています。WHO 世界インフルエンザ・サーベイランス及び対応システム (GISRS) の検査施設では、この間に 85,968 本を超える検体が検査されました。インフルエンザ・ウイルスが陽性となった検体は 12,819 本で、このうち 4,580 検体(35.7%)がインフ

ルエンザ A 型、8,239 検体(64.3%)がインフルエンザ B 型でした。亜型が解析されたインフルエンザ A 型ウイルスのうち、1,728 検体(81.5%)がインフルエンザ A(H1N1)pdm09、391 検体(18.5%)がインフルエンザ A(H3N2)でした。解析されたインフルエンザ B 型ウイルスのうち、353 検体(20.6%)が B-山形系統で、1,358 検体(79.4%)が B-ビクトリア系統でした。

#### 【4月18日】

2016年4月インフルエンザ流行情報です。下記は FORTH 情報(要約ベース)を引用しています。

詳しくは、以下、FORTH URLをご覧ください。

<http://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/2016/04211447.html>

#### 要約

北半球では、インフルエンザの活動が治まってきましたが、一部の地域ではインフルエンザ B の活動が増加の役目を果たし、高まって状態でした。南半球では、インフルエンザの活動が少しずつ増えていることが報告されました。

- 北米では、主にインフルエンザ A(H1N1)pdm09 によって続くインフルエンザの活動が報告されていますが、上昇は治まっています。
- ヨーロッパでは、全体としてインフルエンザの活動が治まる傾向がみられました。北部ヨーロッパでは、インフルエンザの活動が全体として治まってきていますが、まだ一定程度は残っていました。ヨーロッパの一部では、流行がインフルエンザ B ウイルスに移り、検出されています。
- アジア北部／温帯地域では、インフルエンザ B ウイルスの検出割合の増加を伴いながら、インフルエンザの高い活動が続いています。
- 中米およびカリブ海地域では、インフルエンザの活動は低いことが報告されました。例外的に、ジャマイカから、インフルエンザ A(H1N1)pdm09 ウイルスが関係した重症急性呼吸器疾患 (SARI) の活動が高まっていることが報告されました。
- 南米熱帯地域では、(活動は)低い状態ですが、インフルエンザ A(H1N1)pdm09 ウイルスの感染伝播の高まりが報告されました。ブラジルでは、インフルエンザ A(H1N1)pdm09 ウイルスによって、インフルエンザの活動が毎年のこの時期に予想されるレベルを超えました。コロンビアでは、RS ウイルスの流行の高まりが報告されました。
- 南半球温帯地域では、インフルエンザ・ウイルスの活動が低いレベルですが、少しずつ高まってきました。アルゼンチン、チリ、パラグアイでは、インフルエンザ様疾患および重症急性呼吸器疾患 (SARI) の高まりがみられました。
- オセアニアと南アフリカでは、インフルエンザ・ウイルスの活動は低いままでした。
- 2016年3月21日から2016年4月3日までのデータが、FluNet(協定世界時間2016年4月15日03:54:50まで)に基づき、92の国と地域にある国立インフルエンザセンター(NICs)とその他の国立インフルエンザ研究施設から集められています。WHO 世界インフルエンザ・サーベイランス及び対応システム(GISRS)の検査施設では、この間に101,187本を超える検体が検査されました。インフルエンザ・ウイルスが陽性となった検体は24,302本で、このうち13,251検体(54.5%)がインフルエンザ A 型、11,051検体(45.5%)がインフルエンザ B 型でした。亜型が解析されたインフルエンザ A 型ウイルスのうち、4,895検体(85.8%)がインフルエンザ A(H1N1)pdm09、811検体(14.2%)がインフルエンザ A(H3N2)でした。解析されたインフルエンザ B 型ウイルスのうち、472検体(19.6%)が B-山形系統で、1,936検体(80.4%)が B-ビクトリア系統でした。

#### 【3月8日】

2016年3月インフルエンザ流行情報です。下記は FORTH 情報(要約ベース)を引用しています。

詳しくは、以下、FORTH URLをご覧ください。

<http://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/2016/03091532.html>

世界では、主体は、インフルエンザ A(H1N1)pdm09とするもののインフルエンザ B の検出割合が増加していました。北半球では、インフルエンザの活動が高いレベルで続いていました。南半球と熱帯地域の国々では、全般的にインフルエンザの活動は低い状態でした。

●ヨーロッパでは、いくつかの国で既にピークを迎えたようですが、高いレベルのインフルエンザの活動が報告され続けていました。インフルエンザ A(H1N1)pdm09 がウイルスのほとんどを占めました。インフルエンザ B の検出割合も増加してきました。ロシアとウクライナでは、重症急性呼吸器感染症 (SARI) の活動の上昇が続いていました。しかし、先週と比べるとレベルは下がってきました。

●北米のカナダとアメリカ合衆国では、主にインフルエンザ A(H1N1)pdm09 による、またメキシコではインフルエンザ A(H3N2)による、インフルエンザの活動のさらなる高まりが報告されました。

●アジア北部／温帯地域では、インフルエンザの活動が高い状態で留まっています。しかし、いくつかの国では既にピークを迎えたようでした。

●西アジアでは、インフルエンザの活動が下がってきました。オマーンでは、低いレベルでインフルエンザ A(H1N1)pdm09 とインフルエンザ B ウイルスの両方が続いていることが報告されました。

●アフリカでは、アフリカ北部でインフルエンザ A(H1N1)pdm09 の活動が報告されました。

●アメリカ大陸の熱帯地域、中米、カリブ海では、全体としてほとんどの国で、インフルエンザとその他の呼吸器系ウイルスの活動が低調でした。例外として、ジャマイカとプエルトリコでインフルエンザの活動が高まっていますが、それも下がってきました。

●東南アジアでは、引き続きインフルエンザの活動は低い状態であることが報告されました。

●南半球温帯地域では、インフルエンザの活動は低い状態で、オフシーズンのレベルでした。

●2016年2月8日から2016年2月21日までのデータが、FluNet(協定世界時間2016年3月4日07:20:12まで)に基づき、98の国と地域にある国立インフルエンザセンター(NICs)とその他の国立インフルエンザ研究施設から集められています。WHO世界インフルエンザサーベイランス及び対応システム(GISRS)の検査施設では、この間に158,158本を超える検体が検査されました。インフルエンザウイルスが陽性となった検体は42,727本で、このうち33,745検体(79%)がインフルエンザA型、8,982検体(21%)がインフルエンザB型でした。亜型が解析されたインフルエンザA型ウイルスのうち、19,269検体(87.7%)がインフルエンザA(H1N1)pdm09、2,709検体(12.3%)がインフルエンザA(H3N2)でした。解析されたインフルエンザB型ウイルスのうち、589検体(24.4%)がB-山形系統で、1,821検体(75.6%)がB-ビクトリア系統でした。

【2月8日】

2016年2月インフルエンザ流行情報です。下記はFORTH情報(要約ベース)を引用しています。

詳しくは、以下、FORTH URLをご覧ください。

<http://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/2016/02161441.html>

世界的に、インフルエンザの活動レベルが高まっていることの報告が北半球の温帯地域から続いています。検出されるほとんどのウイルスはインフルエンザ A(H1N1)pdm09 でした。

●ヨーロッパでは、インフルエンザ A(H1N1)pdm09 の活動の高まりが報告されてきています。ヨーロッパ北部と東部のいくつかの国では、インフルエンザ様疾患 (ILI) の顕著な増加とインフルエンザ A(H1N1)pdm09 による重症患者の増加が報告されました。ヨーロッパの一部の国では、インフルエンザ B ウイルスが主体となる活動の増加が報告されました。

●北米では、インフルエンザ A(H1N1)pdm09 の僅かな増加が報告されました。しかし、全体としては、まだ低いレベルに留まっています。

●東アジアでは、日本と韓国でインフルエンザ A(H1N1)pdm09 ウイルスを主体として、インフルエンザの活動が高まってきました。中国北部では、主にインフルエンザ A(H3N2)とインフルエンザ B ウイルスが検出されました。

●アジア西部では、イスラエルでインフルエンザの活動が高いレベルに留まっていた。しかし、ヨルダン、オマーン、イランでは、ピークに達したとみられました。

●アフリカ大陸の熱帯地域では、インフルエンザ・ウイルスの検出は数か国で報告されるに留まりました。

●アメリカ大陸の熱帯地域、中米、カリブ海では、全体として、ほとんどの国でインフルエンザとその他の呼吸器系ウイルスの活動が低いレベルにありました。プエルトリコとグアドループでは、ここ数週間でインフルエンザとインフルエンザ様疾患 (ILI) の増加が報告されました。コスタリカでは、インフルエンザの活動は減少レベルにありますが高い状態が続いています。

●アジア熱帯地域では、全体として南アジアと東南アジアの国々で、低調なインフルエンザの活動状態が続いていることが報告されました。

●南米温帯地域では、呼吸器系ウイルスの活動が低い状態でした。

●2016年1月11日から2016年1月24日までのデータが、FluNet(協定世界時間2016年2月5日04:13:45現在)に基づき、87の国と地域にある国立インフルエンザセンター(NICs)とその他の国立インフルエンザ研究施設から集められています。WHO世界インフルエンザサーベイランス及び対応システム(GISRS)の検査施設では、この間に112,204本を超える検体が検査されました。インフルエンザ・ウイルスが陽性となった検体は20,839本で、このうち17,413検体(83.6%)がインフルエンザA型、3,428検体(16.4%)がインフルエンザB型でした。亜型が解析されたインフルエンザA型ウイルスのうち、10,873検体(81.9%)がインフルエンザA(H1N1)pdm09、2,405検体(18.1%)がインフルエンザA(H3N2)でした。解析されたインフルエンザB型ウイルスのうち、509検体(42.1%)がB-山形系統で、700検体(57.9%)がB-ビクトリア系統でした。

#### 【1月24日】

2016年1月インフルエンザ流行情報です。下記はFORTH情報(要約ベース)です。

詳しくは、以下、FORTH URLをご覧ください。

<http://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/2016/01151148.html>

西アジアのいくつかの国から活発なインフルエンザの活動が報告されました。地球全体では、インフルエンザの活動が北半球温帯地域のいくつかの国で高まってきました。しかし、総じてみると低い状態でした。

●東アジアでは、インフルエンザの活動は低いレベルが続いていました。例外的に、モンゴルでインフルエンザの活動の高まりが報告されました。

●中央アジアでは、2、3の国でインフルエンザの活動の高まりが報告されました。しかし、総じてみると低い状態でした。

●西アジアでは、インフルエンザの活動は高い状態にありました。イスラエル、ヨルダン、オマーンでは、インフルエンザ A(H1N1)pdm09とインフルエンザBウイルスによるインフルエンザの活動の高まりが報告されました。また、イランでは、主にインフルエンザ A(H1N1)pdm09によるインフルエンザの活動の高まりが報告されました。一方、バーレーンとカタールでは、インフルエンザ活動は低い傾向が報告されました。

- ヨーロッパでは、インフルエンザの活動は低いレベルが続いていました。例外的に、ヨーロッパ北部と東部ではインフルエンザの活動の高まりが観測されました。
- アフリカ北部では、2、3の国でインフルエンザの活動の高まりが報告されました。しかし、総じてみると低い状態でした。
- アメリカ大陸の熱帯地域では、呼吸器系ウイルスの活動は低いレベルにありました。
- アジア熱帯地域では、全体として南アジアと東南アジアの国々でインフルエンザの低調な活動が報告されました。例外的に、ラオスとタイではインフルエンザ B ウイルスの検出が続いていました。
- 南米温帯地域では、この数週間、呼吸器系ウイルスの活動は低調でした。
- 2015年12月14日から12月27日までのデータが、FluNet(協定世界時間 2016年1月8日 07:58:13 現在)に基づき、76の国と地域にある国立インフルエンザセンター(NICs)とその他の国立インフルエンザ研究施設から集められています。WHO 世界インフルエンザ・サーベイランス及び対応システム(GISRS)の検査施設では、この間に35,732本を超える検体が検査されました。インフルエンザウイルスが陽性となった検体は4,383本で、このうち3,900検体(89%)がインフルエンザ A 型、483検体(11%)がインフルエンザ B 型でした。亜型が解析されたインフルエンザ A 型ウイルスのうち、2,919検体(93.3%)がインフルエンザ A(H1N1)pdm09、210検体(6.7%)がインフルエンザ A(H3N2)でした。解析されたインフルエンザ B 型ウイルスのうち、46検体(52.9%)が B-山形系統で、41検体(47.1%)が B-ビクトリア系統でした。

#### 【12月14日】更新情報24

2015年12月インフルエンザ流行情報です。下記は FORTH 情報(要約ベース)です。

詳しくは、以下、FORTH URLをご覧ください。

<http://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/2015/12171422.html>

地球全体で見ると、インフルエンザの活動は両半球ともに総じて低い状態でした。

- 中央アジアとヨーロッパ北部では、最近、少しずつインフルエンザの検出数が増えてきました。
- 東アジア、ヨーロッパの残る地域、アフリカ北部、北アメリカでは、インフルエンザの活動はオフシーズンにあたる低いレベルが続いていました。
- 西アジアのオマーンでは、インフルエンザの活動の増加が報告されました。主なウイルスはインフルエンザ A(H1N1)pdm09 とインフルエンザ B ウイルスでした。一方、バーレーンではインフルエンザ活動の低下が報告されました。
- アフリカの国からは、インフルエンザウイルスの検出はほとんど報告されませんでした。
- アメリカ大陸の熱帯地域、中米、カリブ地域では、コロンビア、コスタリカ、ニカラグアを除いて、インフルエンザの活動が低いレベルにありました。
- アジア熱帯地域では、全体として南アジアと東南アジアの国々でインフルエンザの活動は低いことが報告されました。例外的に、タイでは、主に B ウイルスの報告が続いています。イランでインフルエンザの活動の増加が報告されました。主にインフルエンザ A(H1N1)pdm09 が報告されています。
- 南米温帯地域では、この数週間、呼吸器系ウイルスの活動は低い状態にありました。僅かながら検出されるのは、インフルエンザ A(H3N2)とインフルエンザ B ウイルスでした。
- 2015年11月16日から11月29日までのデータが、FluNet(協定世界時間 2015年12月10日 13:22:14 現在)に基づき、79の国と地域にある国立インフルエンザセンター(NICs)とその他の国立インフルエンザ研究施設から集められています。WHO 世界インフルエンザ・サーベイランス及び対応システム(GISRS)の検査施設では、この間に52,160本を超える検体が検査されました。インフルエンザウイルスが陽性となった検体は1,615本で、このうち1,162検体(72%)がインフル

ンザ A 型、453 検体(28%)がインフルエンザ B 型でした。亜型が解析されたインフルエンザ A 型ウイルスのうち、408 検体(42.7%)がインフルエンザ A(H1N1)pdm09、548 検体(57.3%)がインフルエンザ A(H3N2)でした。解析されたインフルエンザ B 型ウイルスのうち、182 検体(74.9%)が B-山形系統で、61 検体(25.1%)が B-ビクトリア系統でした。

#### 【11月16日】更新情報22

2015年11月インフルエンザ流行情報です。下記は FORTH 情報(要約ベース)です。

詳しくは、以下、FORTH URLをご覧ください。

<http://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/2015/11181521.html>

地球全体で見ると、インフルエンザの活動は両半球ともに総じて低い状態でした。

- 北半球では、インフルエンザの活動は散発的に検出されるだけで、オフシーズンの低いレベルが続いていました。
- アフリカの国からはインフルエンザウイルスの検出はほとんど報告されませんでした。
- アメリカ大陸の熱帯地域、中米、カリブ地域では、インフルエンザの活動は低いレベルに留まっていた。例外的にキューバでは、インフルエンザ A(H1N1)pdm09 と RS ウイルスが関与し、依然として、たくさんの数の重症急性呼吸器感染症(SARI)が報告されています。コロンビアでは、RS ウイルスとインフルエンザ A(H3N2)の検出が続いており、急性呼吸器感染症(ARI)の活動が再び僅かな上昇を示していました。
- 西アジアでは、バーレーンとカタールでインフルエンザの活動の上昇が報告されました。主なウイルスはインフルエンザ A(H1N1)pdm09 でした。
- アジア熱帯地域では、全体として南アジアと東南アジアの国々でインフルエンザの活動は低い状態にあることが報告されました。例外的に、インド、ラオス、タイでは主にインフルエンザ A(H1N1)pdm09 による活動の高まりが続いていると報告されています。中国南部ではインフルエンザの活動が低下してきました。イランでは、主にインフルエンザ A(H3N2)によるインフルエンザの検出数の増加が報告されました。
- 南米温帯地域では、この数週間、呼吸器系ウイルスの活動が下がってきました。チリでは、インフルエンザ様疾患(ILI)の活動が下がってきました。しかし、インフルエンザ A と RS ウイルスの検出数が減少傾向を示しながらも、この活動は予測されたレベルを超えて留まっています。
- オーストラリア、ニュージーランド、南アフリカでは、これらの国々がインフルエンザシーズンの終わりを迎えるのに伴い、ウイルスの検出数は低いレベルに下がってきています。
- 2015年10月19日から11月1日までのデータが、FluNet(協定世界時間2015年11月12日13:57:25現在)に基づき、87の国と地域にある国立インフルエンザセンター(NICs)とその他の国立インフルエンザ研究施設から集められています。WHO 世界インフルエンザサーベイランス及び対応システム(GISRS)の検査施設では、この間に52,883本を超える検体が検査されました。インフルエンザウイルスが陽性となった検体は1,341本で、このうち1,049検体(78.1%)がインフルエンザ A 型、294検体(21.9%)がインフルエンザ B 型でした。亜型が解析されたインフルエンザ A 型ウイルスのうち、517検体(68.2%)がインフルエンザ A(H1N1)pdm09、241検体(31.8%)がインフルエンザ A(H3N2)でした。解析されたインフルエンザ B 型ウイルスのうち、42検体(53.2%)が B-山形系統で、37検体(46.8%)が B-ビクトリア系統でした。

#### 【10月19日】更新情報20

2015年10月インフルエンザ流行情報です。下記は FORTH 情報(要約ベース)です。

詳しくは、以下、FORTH URLをご覧ください。

<http://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/2015/10211522.html>

地球全体で見ると、総じてインフルエンザの活動は両半球ともに下がるか、低下した状態でした。わずかな国でのみ呼吸器疾患のレベルの上昇が報告されています。

●北半球では、インフルエンザの活動は散発的な検出だけでオフシーズンの低いレベルが続いています。アメリカ合衆国では、RS ウイルスの活動の高まりが報告されました。

●アフリカの国からは、インフルエンザの検出はほとんど報告されていません。アフリカ東部と西部でインフルエンザの活動が報告された国では、主にインフルエンザ A 型が占めていました。

●アメリカ大陸の熱帯地域、中米、カリブ地域では、インフルエンザの活動は低いレベルに留まっていた。例外的にキューバでは、インフルエンザ A(H1N1)pdm09 と RS ウイルスが関係し、依然として多くの重症急性呼吸器感染症 (SARI) が報告されています。コロンビアでは、この数週間で急性呼吸器疾患の活動が下がりました。しかし、RS ウイルスの活動は前年と比べて高い状態です。

●アジア熱帯地域では、全体として南アジアと東南アジアの国々でインフルエンザの活動は低い状態にあると報告されました。例外的に、インドではインフルエンザ A(H1N1)pdm09 による活動の高まりが、ラオスではインフルエンザ A(H3N2) による活動の高まりが、続いていると報告されています。中国南部では、インフルエンザの活動が低下してきました。

●南米温帯地域では、RS ウイルスの活動が 7 月初めに、インフルエンザウイルスの活動が 8 月終わりにピークを迎えた後、この数週間、呼吸器系ウイルスの活動が下がってきました。チリでは、通常の上昇傾向よりも遅れて 8 月から 9 月の初めにインフルエンザの活動がピークを迎えましたが、インフルエンザ様疾患 (ILI) の活動は A(H1N1)pdm09 と RS ウイルスの検出数の減少に伴い低下してきました。

●南アフリカでは、インフルエンザシーズンが 9 月中旬までに終わり、この数週間はインフルエンザ B ウイルスだけが散発的に検出されました。インフルエンザ様疾患 (ILI) と RS ウイルスも低い状態でした。

●オーストラリアとニュージーランドでは、インフルエンザの活動が 8 月中旬にピークを迎えた後、下がり続けています。最近では主にインフルエンザ B ウイルスが検出されていました。ニュージーランドでは、まだインフルエンザ様疾患 (ILI) の活動がシーズンの注意レベルを上回っています。

●2015 年 9 月 21 日から 10 月 4 日までのデータが、FluNet (協定世界時間 2015 年 10 月 1 日 12:17:00 現在) に基づき、81 の国と地域にある国立インフルエンザセンター (NICs) とその他の国立インフルエンザ研究施設から集められています。WHO 世界インフルエンザ・サーベイランス及び対応システム (GISRS) の検査施設では、49,103 本を超える検体が検査されました。インフルエンザウイルスが陽性となった検体は 2,240 本で、このうち 1,495 検体 (66.7%) がインフルエンザ A 型、745 検体 (33.3%) がインフルエンザ B 型でした。亜型が解析されたインフルエンザ A 型ウイルスのうち、350 検体 (29.8%) がインフルエンザ A(H1N1)pdm09、824 検体 (70.2%) がインフルエンザ A(H3N2) でした。解析されたインフルエンザ B 型ウイルスのうち、138 検体 (66.7%) が B-山形系統で、69 検体 (33.3%) が B-ビクトリア系統でした。

【9月10日】更新情報17

2015年9月インフルエンザ流行情報です。下記は FORTH 情報(要約ベース)です。

詳しくは、以下、FORTH URLをご覧ください。

<http://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/2015/09101449.html>

地球全体で見ると、南半球ではインフルエンザの活動が続いています。オセアニアでは増加し、南米温帯地域ではピークを迎え、南アフリカでは活動が弱まってきました。

●北半球の国々では、全体的に呼吸器系ウイルスの活動が低い状態にとどまり、インフルエンザの活動はオフシーズンの低いレベルが続いています。インフルエンザ A 型が散発的に検出されています。多くの国がオフシーズンの間は調査活動の数を減らす体制をとっています。

●アフリカ東部では、インフルエンザの活動が報告された国からは、主にインフルエンザ A 型が検出されています。アフリカ西部では、全体的にインフルエンザの活動が弱まっています。ガーナでは主にインフルエンザ B が、コートジボワールでは主にインフルエンザ A 型が検出されています。

●アメリカ大陸の熱帯地域、中米、カリブ地域では、インフルエンザ様疾患 (ILI) や重症急性呼吸器感染症 (SARI) の活動が高いレベルにあるキューバを除いて、インフルエンザの活動は低いレベルにあります。キューバでは、インフルエンザ A(H1N1)pdm09 と RS ウイルスの検出が関係しています。

●アジア熱帯地域では、インドで主にインフルエンザ A(H1N1)pdm09 の活動による活動の小さな増加が報告されているものの、南アジアと東南アジアの国々では全体的にインフルエンザの活動が低いレベルにあることが報告されています。中国南部では、主にインフルエンザ A(H3N2)によりインフルエンザの活動がまだ高い状態です。

●南米温帯地域では、呼吸器系ウイルスの活動が依然として上昇しているチリを除いて、インフルエンザ様疾患 (ILI) や重症急性呼吸器感染症 (SARI) の活動は低いか、総じて弱まっています。この地域では、インフルエンザ A が優勢でした。

●南アフリカでは、インフルエンザの活動は弱まってきました。この数週間は主にインフルエンザ B が検出されました。

●オーストラリアでは、インフルエンザ A(H3N2)の検出に続いてインフルエンザ B が検出されるようになり、インフルエンザの活動は現在も高まり続けているようです。ニュージーランドでは、インフルエンザ A(H3N2)とインフルエンザ B の流行が 8 月第 2 週にピークを迎えたもようです。

●2015 年 8 月 10 日から 8 月 23 日までのデータが、FluNet(協定世界時間 2015 年 9 月 7 日 14:18:56 現在)に基づき、77 の国と地域にある国立インフルエンザセンター(NICs)とその他の国立インフルエンザ研究施設から集められています。WHO 世界インフルエンザ・サーベイランス及び対応システム(GISRS)の検査施設では、32,226 本を超える検体が検査されました。インフルエンザウイルスが陽性となった検体は 4,246 本で、このうち 3,219 検体(75.8%)がインフルエンザ A 型、1,027 検体(24.2%)がインフルエンザ B 型でした。亜型が解析されたインフルエンザ A 型ウイルスのうち、326 検体(12.2%)がインフルエンザ A(H1N1)pdm09、2,350 検体(87.8%)がインフルエンザ A(H3N2)でした。解析されたインフルエンザ B 型ウイルスのうち、126 検体(92%)が B-山形系統で、11 検体(8%)が B-ビクトリア系統でした。

#### 【8月10日】更新情報15

2015年8月インフルエンザ流行情報です。下記は FORTH 情報(要約ベース)です。

詳しくは、以下、FORTH URLをご覧ください。

<http://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/2015/08121115.html>

地球全体で見ると、北半球ではインフルエンザの活動は低いレベルにとどまっていますが、南半球ではいくつかも国で活動が高まってきました。



- 北米とヨーロッパでは、インフルエンザの活動はオフシーズンの低いレベルで、散発的に検出されるのは主にインフルエンザ B でした。
- 報告が行われたアフリカのほとんどの国では、インフルエンザの活動は低いレベルにとどまっています。例外的に、セネガルではインフルエンザ B の検出が増えてきました。
- アメリカ大陸の熱帯地域／中米、カリブ地域では、インフルエンザの活動はオフシーズンの低いレベルにあると報告されました。キューバでのみ、インフルエンザ A(H1N1)pdm09 とパラインフルエンザウイルスの検出数で増加が報告されています。
- 西アジアおよびアジア温帯地域では、インフルエンザの活動はオフシーズンの低いレベルです。その中で、西アジアでは主にインフルエンザ B がみられ、同時にインフルエンザ A(H1N1)pdm09 もみられます。
- アジア熱帯地域では、南アジアの国々で主にインフルエンザ A(H3N2)によるインフルエンザの活動の高まりが報告されましたが、弱まってきています。東南アジアでは、活動は低いレベルにあります。しかし、ラオスとベトナムではインフルエンザの活動は高まっていることが報告されました。
- 南米温帯地域では、インフルエンザ A(H1N1)pdm09 とインフルエンザ A(H3N2)が優勢でしたが、インフルエンザの活動は弱まってきました。全体的に、インフルエンザの活動は、ここ数年に比べると低いレベルです。
- 南アフリカでは、この数週間インフルエンザ A(H1N1)pdm09 と A(H3N2)が優勢でしたが、インフルエンザの活動は弱まってきました。
- オーストラリアとニュージーランドでは、インフルエンザ A(H3N2)とインフルエンザ B の両方が流行しており、インフルエンザの活動は高まっています。
- 2015 年 7 月 13 日から 7 月 26 日までのデータが、FluNet(協定世界時間 2015 年 8 月 6 日 12:04:14)に基づき、69 の国と地域にある国立インフルエンザセンター(NICs)とその他の国立インフルエンザ研究施設から集められています。WHO 世界インフルエンザ・サーベイランス及び対応システム(GISRS)の検査施設では、29,591 本を超える検体が検査されました。インフルエンザウイルスが陽性となった検体は 2,699 本で、このうち 2,242 検体(83.1%)がインフルエンザ A 型、457 検体(16.9%)がインフルエンザ B 型でした。亜型が解析されたインフルエンザ A 型ウイルスのうち、61 検体(2.7%)がインフルエンザ A(H1N1)pdm09、2,232 検体(97.3%)がインフルエンザ A(H3N2)でした。解析されたインフルエンザ B 型ウイルスのうち、143 検体(91.1%)が B-山形系統で、14 検体(8.9%)が B-ビクトリア系統でした。

**【7月13日】更新情報13**

2015年インフルエンザ流行情報です。下記は FORTH 情報(要約ベース)です。

詳しくは、以下、FORTH URLをご覧ください。

<http://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/2015/07141444.html>

地球全体で見ると、南半球ではインフルエンザの活動が高まってきたか、既に高まった状態になりました。一方、北半球では低い状態が続いています。

- 北米、ヨーロッパ、アジア温帯地域では、散発的にインフルエンザ B を検出することはあるものの、インフルエンザの活動は低く、オフ・シーズンの状態です。
- アフリカ南部を除けば、インフルエンザの情報を報告した国は僅かです。これらの国では、インフルエンザの活動レベルは低いか弱まってきました。

- アメリカ大陸の熱帯地域／中米、カリブ地域では、インフルエンザの活動はオフ・シーズンの状態にあると報告されました。一方、RS ウイルスの活動が高まっています。
- 西アジアおよびアジア温帯地域では、この数週間、ところどころで主にインフルエンザ A(H1N1)pdm09 とインフルエンザ B が報告されましたが、インフルエンザの活動自体は低いレベルでした。
- アジア熱帯地域では、インフルエンザの活動が流行レベルにとどまっています。この数週間、インフルエンザ A(H1N1)pdm09 とインフルエンザ A(H3N2)が同じように流行していました。
- 南米温帯地域では、インフルエンザの活動は低いレベルでした。一方で、RS ウイルスの検出が増加しました。しかし、パラグアイでは RS ウイルスの検出数が既に減ってきています。
- 南アフリカでは、インフルエンザ A(H1N1)pdm09、A(H3N2)、インフルエンザ B が同時に流行した状態が続いています。
- オーストラリアとニュージーランドでは、インフルエンザの活動が高まりつつあり、オーストラリアでは流行シーズンの基準を超えました。
- 2015年6月14日から6月27日に対するデータが、FluNet(協定世界時間2015年7月9日14:00)に基づき75の国と地域にある国立インフルエンザセンター(NICs)とその他の国立インフルエンザ研究施設から、集められています。WHO 世界インフルエンザ・サーベイランス及び対応システム(GISRS)の検査施設では、26,786本を越える検体が検査されました。インフルエンザ・ウイルスが陽性となった検体は1,476本で、このうち1,084検体(73.4%)がインフルエンザ A 型、392検体(26.6%)がインフルエンザ B 型でした。亜型が解析されたインフルエンザ A 型ウイルスのうち、230検体(39.8%)がインフルエンザ A(H1N1)pdm09、348検体(60.2%)がインフルエンザ A(H3N2)でした。解析されたインフルエンザ B 型ウイルスのうち、62検体(96.9%)が B-山形系統で、2検体(3.1%)が B-ビクトリア系統でした。

#### 【6月15日】更新情報11

2015年インフルエンザ流行情報です。下記は FORTH 情報(要約ベース)です。  
詳しくは、以下、FORTH URLをご覧ください。

<http://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/2015/06161552.html>

地球全体で見ると、北半球ではインフルエンザの活動が2015年初めのピークから低い水準へと下がってきました。

- 北米では、インフルエンザの活動はオフ・シーズンのレベルになりました。この数週間はインフルエンザ B が優勢ですが、低水準です。
- ヨーロッパでは、この数週間、インフルエンザ B の優勢が続いていますが、各国はインフルエンザの活動が低水準にあることを報告しています。
- 北部アフリカと西アジアでは、ほとんどの国でインフルエンザの活動は低水準にとどまっています。その中では、インフルエンザ A の活動が優勢です。
- アジア温帯地域では、インフルエンザの活動は、ほとんどの国で低水準にとどまるか、もしくは低水準になりつつあります。
- アメリカ大陸とアジア熱帯地域では、インフルエンザの活動が下がり続けており、ほとんどの国で低水準にとどまっています。中国、香港、シンガポールでは、インフルエンザの活動の増加は僅かでした。一方、スリランカとベトナムでは、この数週間で活動がかなり高まったことが報告されました。

●南半球では、インフルエンザの活動が低水準にとどまっていますが、ほとんどの国で高まりつつあります。南アフリカでは、この数週間でインフルエンザの活動が大きく増加したことが報告されました。インフルエンザ A(H1N1)pdm09 と A(H3N2) ウイルスが同時に流行しています。

●2015年5月17日から5月30日に対するデータが、FluNet(協定世界時間 2015年6月11日 13:25)に基づき75の国と地域にある国立インフルエンザセンター(NICs)とその他の国立インフルエンザ研究施設から、集められています。WHO 世界インフルエンザ・サーベイランス及び対応システム(GISRS)の検査施設では、42,971本を越える検体が検査されました。インフルエンザ・ウイルスが陽性となった検体は2,426本で、このうち1,174検体(48.4%)がインフルエンザ A 型、1,252検体(51.6%)がインフルエンザ B 型でした。亜型が解析されたインフルエンザ A 型ウイルスのうち、212検体(22.9%)がインフルエンザ A(H1N1)pdm09、712検体(77.1%)がインフルエンザ A(H3N2)でした。解析されたインフルエンザ B 型ウイルスのうち、263検体(93.3%)が B-山形系統で、19検体(6.7%)が B-ビクトリア系統でした。

#### 【5月18日】更新情報9

2015年インフルエンザ流行情報です。下記は FORTH 情報(要約ベース)です。

詳しくは、以下、FORTH URLをご覧ください。

<http://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/2015/05191405.html>

地球全体で、インフルエンザの活動は低調な状態にあります。北半球ではオフ・シーズンに近づき、南半球ではインフルエンザの活動が低調にとどまっています。熱帯地域の国々では、アジア熱帯地域と西アフリカのいくつかの国を除いて、インフルエンザの活動は低調な状態であることが報告されています

●北米では、インフルエンザの活動が弱まり、オフ・シーズンの水準に近づきつつあります。しかし、インフルエンザ B の流行の減り方がインフルエンザ・シーズンの減少をゆっくりしたものにしています。

●ヨーロッパでは、インフルエンザの活動にインフルエンザ B ウイルスが関係していますが、ほとんどの国で弱まってきています。

●北部アフリカでは、この数週間は主にインフルエンザ B が検出されていました。しかし、インフルエンザの活動はほとんどでオフ・シーズンの水準まで下がりました。

●西アジアでは、最近の数週間、特にヨルダンで、A(H1N1)pdm09 ウイルスが検出されていましたが、インフルエンザの活動はさらに弱まりました。

●アジア温帯地域では、この数週間に僅かにインフルエンザ B が検出された地域でも、ほとんど活動がなくなりました。

●アメリカ熱帯地域では、インフルエンザ A(H3N2)の検出が僅かながら増加しているグアテマラを除いて、ほとんどの国でインフルエンザの活動は低調です。

●アジア熱帯地域では、インフルエンザの活動はほとんどの国で低調か、弱まってきています。西アフリカでは、いくつかの国でインフルエンザ検出の増加が報告されています。

●南半球では、インフルエンザの活動はオフ・シーズンの水準にとどまっています。

●2015年4月19日から5月2日に対するデータが、FluNet(協定世界時間 2015年5月12日 14:05)に基づき86の国と地域にある国立インフルエンザセンター(NICs)とその他の国立インフルエンザ研究施設から、集められています。WHO 世界インフルエンザ・サーベイランス及び対応システム(GISRS)の検査施設では、51,009本を越える検体が検査されました。インフルエンザ・ウイルスが陽性となった検体は4,728本で、このうち1,234検体(26.1%)がインフルエンザ A 型、

3,494 検体(73.9%)がインフルエンザ B 型でした。亜型が解析されたインフルエンザ A 型ウイルスのうち、456 検体(53.8%)がインフルエンザ A(H1N1)pdm09、391 検体(46.2%)がインフルエンザ A(H3N2)でした。解析されたインフルエンザ B 型ウイルスのうち、285 検体(94.7%)が B-山形系統で、16 検体(5.3%)が B-ビクトリア系統でした。

#### 【4月7日】更新情報6

2015年インフルエンザ流行情報です。下記は FORTH 情報(要約ベース)です。

詳しくは、以下、FORTH URLをご覧ください。

<http://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/2015/04081430.html>

地球全体でみると、北半球でのインフルエンザの活動はシーズンの警戒レベルより高い状態にはありますが、かなり弱まってきています。今シーズンの流行はインフルエンザ A(H3N2)でしたが、この数週間はインフルエンザ B とインフルエンザ A(H1N1)pdm09 の検出が増えてきました。

- 北米では、インフルエンザの活動は弱まってきています。しかし、まだ警戒レベルを上回った状態です。一方、インフルエンザ B の検出割合が増えてきました。
- ヨーロッパでは、ほとんどの国でインフルエンザの活動が弱まってきています。今シーズンはインフルエンザ A(H3N2)が流行した状態が続いていますが、多くの国でインフルエンザ B の検出割合が増えています。
- 北部アフリカと中東では、インフルエンザの活動はほとんどの地域で弱まりました。この地域での流行はインフルエンザ A(H1N1)pdm09 です。
- 西アジアでは、インフルエンザの活動はこの地域のほとんどの国で弱まりました。しかし、トルコでは、インフルエンザ B とインフルエンザ A(H1N1)pdm09 に伴う検出数の増加がみられます。
- アジア温帯地域では、インフルエンザの活動はこの地域のほとんどで弱まってきています。しかし、韓国では活動が増加しています。中国北部では、インフルエンザの活動は今年の始めがピークでしたが、現在インフルエンザ B の活動が高まっています。
- アメリカ熱帯地域では、ほとんどの国で少しずつインフルエンザの活動の増加が報告されています。コロンビア、エクアドル、ジャマイカおよびプエルトリコでは RS ウイルスやインフルエンザ・ウイルスによるインフルエンザ様疾患 (ILI) の増加が報告されています。
- アジア熱帯地域では、インドとブータンでインフルエンザの活動が高い状態です。インフルエンザ A(H1N1)pdm09 が主体です。中国南部と香港では、インフルエンザ A(H3N2)とインフルエンザ B によるインフルエンザの活動が弱まってきています。
- 南半球では、インフルエンザの活動はオフ・シーズンの状態にあります。
- 2015年3月8日から3月21日に対するデータが、FluNet(協定世界時間 2015年4月2日 14:15)に基づき、88の国と地域にある国立インフルエンザセンター(NICs)とその他の国立インフルエンザ研究施設から集められています。WHO 世界インフルエンザ・サーベイランス及び対応システム(GISRS)の検査施設では、87,715本を越える検体が検査されました。インフルエンザ・ウイルスが陽性となった検体は17,828で、このうち9,119検体(51.1%)がインフルエンザ A 型、8,707検体(48.9%)がインフルエンザ B 型でした。亜型が解析されたインフルエンザ A 型ウイルスのうち、2,558検体(49.8%)がインフルエンザ A(H1N1)pdm09、2,579検体(50.2%)がインフルエンザ A(H3N2)でした。解析されたインフルエンザ B 型ウイルスのうち、427検体(97.7%)が B-山形系統で、10検体(2.3%)が B-ビクトリア系統でした。

#### 【3月9日】更新情報4

2015年インフルエンザ流行情報です。下記は FORTH 情報(要約ベース)です。

詳しくは、以下、FORTH URLをご覧ください。

<http://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/2015/03101654.html>

地球全体で見ると、インフルエンザの活動は北半球で高い状態です。主体はインフルエンザ A(H3N2)ウイルスです。アフリカ、アジア、ヨーロッパ南部のいくつかの国からはインフルエンザ A(H1N1)pdm09 の増加が報告されています。

- 北米では、インフルエンザの活動はピークに続く高さを維持しています。今シーズンは現在もインフルエンザ A(H3N2)が主体です。
- ヨーロッパでは、インフルエンザのシーズンが高い状態にあります。特に、西部と中央部の国々で高くなっています。
- 北部アフリカと中東では、インフルエンザの活動はほとんどの地域で低くなってきました。この地域ではインフルエンザ A が主体です。
- アジア温帯地域では、インフルエンザの活動が中国北部とモンゴルでピークから下がってきました。しかし、韓国では増加が続いています。主体はインフルエンザ A(H3N2)です。
- アメリカ熱帯地域では、ほとんどの国でインフルエンザの活動は低い状態です。
- アジア熱帯地域では、インフルエンザの活動がインドとラオスで高まってきています。中国南部、香港、イランではインフルエンザの活動が高いままにとどまっています。
- 南半球では、インフルエンザの活動はオフ・シーズンのレベルが続いています。
- 2015-2016 年北半球の冬期に対するワクチンの推奨が発表されました。下記のリンクで閲覧できます。

([http://www.who.int/influenza/vaccines/virus/recommendations/2015\\_16\\_north/en/](http://www.who.int/influenza/vaccines/virus/recommendations/2015_16_north/en/))

●2015 年第 6 週と第 7 週(2015 年 2 月 8 日から 2 月 21 日)に対して、FluNet(協定世界時間 2015 年 3 月 5 日 16:25)に基づき、89 の国と地域にある国立インフルエンザセンター(NICs)とその他の国立インフルエンザ研究施設から、データが集められています。WHO 世界インフルエンザ・サーベイランス及び対応システム(GISRS)の検査施設では、133,895 本を越える検体が検査されました。インフルエンザ・ウイルスが陽性となった検体は 34,056 で、このうち 25,455 検体(74.7%)がインフルエンザ A 型、8,601 検体(25.3%)がインフルエンザ B 型でした。亜型が解析されたインフルエンザ A 型ウイルスのうち、2,382 検体(20.5%)がインフルエンザ A(H1N1)pdm09、9,253 検体(79.5%)がインフルエンザ A(H3N2)でした。解析されたインフルエンザ B 型ウイルスのうち、1,656 検体(97.1%)が B-山形系統で、49 検体(2.9%)が B-ビクトリア系統でした。

#### 【2月9日】更新情報2

2015年インフルエンザ流行情報です。下記は FORTH 情報(要約ベース)です。

詳しくは、以下、FORTH URLをご覧ください。

<http://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/2015/02161232.html>

地球全体でみると、今年のインフルエンザ・シーズンはこれまでのところ、北半球でインフルエンザ A(H3N2)ウイルスを主体とする活動が高いままとなっています。最新のインフルエンザ A(H3N2)の抗原性の特徴は、2014-2015 年の北半球に対して用意されたインフルエンザワクチンで使用されている A(H3N2)ワクチンのウイルスの抗原性とは異なることが示されています。これまでの検査結果によれば、インフルエンザ A(H3N2)ウイルスの大半はノイラミニラーゼ阻害薬(抗インフルエンザ薬)に感受性を示しています。

- 北米では、インフルエンザの活動がピークを迎えていると考えられています。大半がインフルエンザ A(H3N2)でした。
- ヨーロッパでは、インフルエンザ・シーズンが浸透してきており、特に WHO の欧州地域の西部から中央部の国々で流行が進んでいます。今シーズンに検出されるウイルスはインフルエンザ A(H3N2)が主体です。
- 北部アフリカと中東では、インフルエンザ A(H3N2)とインフルエンザ B による活動がピークを迎えているようです。しかし、インフルエンザ A(H1N1) pdm09 の活動の高まりがアルジェリアとイランから報告されています。
- アジア温帯地域では、インフルエンザの活動は中国北部ではピークを迎えているようです。しかし、日本と韓国ではまだ増加が続いています。これまでのところインフルエンザ A(H3N2)が主体です。
- アメリカ熱帯地域では、カリブ海、中央アメリカ、南アメリカの熱帯地域とも、ほとんどの国でインフルエンザの活動は低い状態です。
- アジア熱帯地域では、インフルエンザの活動が中国南部、香港、インドで増加しています。
- 南半球では、インフルエンザの活動はオフ・シーズンのレベルにあります。
- 2014 年 2 週と 2015 年 3 週(2015 年 1 月 11 日から 2015 年 1 月 25 日)の FluNet(協定世界時間 2015 年 2 月 5 日 10:20)の報告によりますと、93 の国と地域にある国立インフルエンザセンター(NICs)とその他の国立インフルエンザ研究施設から、データが報告されています。WHO 世界インフルエンザ・サーベイランス及び対応システム(GISRS)の検査施設では、135,489 本を越える検体が検査されました。インフルエンザ・ウイルスが陽性となった検体は 32,188 で、このうち 28,139 検体(87.4%)がインフルエンザ A 型、4,049 検体(12.6%)がインフルエンザ B 型でした。亜型が解析されたインフルエンザ A 型ウイルスのうち、1151 検体(7.6%)がインフルエンザ A(H1N1) pdm09、13,968 検体(92.4%)がインフルエンザ A(H3N2)でした。解析されたインフルエンザ B 型ウイルスのうち、1,463 検体(99%)が B-山形系統で、15 検体(1%)が B-ビクトリア系統でした。

2015年【1月12日】

2015年インフルエンザ流行情報です。

下記は FORTH 情報(要約ベース)です。

詳しくは、以下、FORTH URLをご覧ください。

<http://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/2015/01141329.html>

地球全体でみると、今シーズンはこれまでのところ、北半球でインフルエンザ A(H3N2)ウイルスを主体とする活動の高まりが続いています。最近のインフルエンザ A(H3N2)の抗原性の特徴は、2014-2015 年の北半球に対して用意されたワクチンで使用している A(H3N2)ワクチンのウイルスとは異なることが示されています。確認されたところでは、検査されたインフルエンザ A(H3N2)ウイルスはノイラミニラーゼ阻害薬(抗インフルエンザ薬)に感受性を示しています。

- 北米では、インフルエンザの活動レベルがほとんどの地域で増加し続けています。ほとんどがインフルエンザ A(H3N2)です。
- ヨーロッパ全体では、インフルエンザの活動は低い水準でとどまっていますが、流行の兆しが見え始めたようです。
- 東アジアでは、インフルエンザの活動が高まっています。ほとんどがインフルエンザ A(H3N2)です。
- 北部及び西部アフリカでは、インフルエンザ B による活動が高まっています。
- アメリカ熱帯地域では、カリブ海のいくつかの国で活動が高まりを示し、中央アメリカでは減少傾向、南アメリカの熱帯地域の国々では低くなっています。
- アジア熱帯地域では、インフルエンザの活動はやや増加の兆しはみえますが、低いレベルにあります。主体はインフルエンザ B です。
- 南半球では、インフルエンザの活動は低い状態ですが、大洋州のいくつかの島々ではインフルエンザ様疾患(ILI)の活動が高いままです。
- 51 週から 52 週(2014 年 12 月 14 日から 2014 年 12 月 27 日)の FluNet の報告(協定世界時間 2015 年 1 月 9 日 13:00)によりますと、49 の国と地域にある国立インフルエンザセンター(NICs) とその他の国立インフルエンザ研究施設から、データが報告されています。WHO 世界インフルエンザ・サーベイランス及び対応システム(GISRS)の検査施設では、96,535 本を越える検体を検査しました。インフルエンザ・ウイルスが陽性となった検体は 23,421 で、このうち 22,129 検体(94.5%)がインフルエンザ A 型、1,292 検体(5.5%)がインフルエンザ B 型でした。亜型が解析されたインフルエンザ A 型ウイルスのうち、163 検体(1.7%)がインフルエンザ A(H1N1) pdm09、9,211 検体(98.3%)がインフルエンザ A(H3N2)でした。解析されたインフルエンザ B 型ウイルスのうち、423 検体(97.2%)が B-山形系統で、9 検体(2.1%)が B-ビクトリア系統でした。